

リニア残土を[くぼ地]と偽って[谷]へ埋めるな [谷]には水が流れ 災害が発生する場所だ

現在、JR 東海は 谷を [くぼ地] と偽って 各地で谷を埋めようとしている。
水が流れ、水で掘りこまれていくのが谷だ。谷の下流域には集落がある。
信州の下伊那 豊丘村の小園集落では、直上の谷を埋めようとした
JR 東海の計画を中止させた。その経過を報告します。

下流域の住民が知らないうちに！

～上流の谷をトンネル残土で埋める計画が進んでいた 下伊那郡豊丘村小園地区～

残土を運ぶダンプの往来による生活環境への影響は どの自治体でも悩みの種

『谷(たに)上部(じょうぶ)への運搬が最適』豊丘村村長の 2014 年の議会答弁
豊丘村内工事で発生するトンネル残土は坑口 1ヶ所、非常口 2 箇所を併せて 225 万 m³

谷筋の上流住民からの要望だった！

谷を埋めて道を作れば、足元の土砂崩れの心配が解消、往来が便利に。平らな土地ができる。

リニアのルート発表直後の 2013 年の秋、上流の自治会からの要望を受け、村は他の 2 箇所を併せ 3 箇所
の発生土置場候補地を県へ報告した。

多くの住民が知ったのは 2016 年 1 月 18・19 日 JR 東海による埋立概要説明会

二つの沢に延長 1 km、最も深い所で 23m、合計 50 万 m³の土を埋める。

県の基準で工事です。工事完了後は地主にお返しします。その後の管理は地主の責任で。

2 月末 計画地区内の上流下流の全戸にチラシを配布

昭和 36 年の水害で死者が出た二つの沢は幾つもの砂防えん堤により現在の流れは安定している。

上流で荒れた印象が持たれるのは繁茂した竹林に依る所が大きい。

説明会の概要と谷の現状、谷を埋めることの危険性を地元有志がアピール

4 月 12 日：谷を埋めることについて専門家による学習会を実施

リニアの賛否を問わず、想定外の強雨や地震の際の地区の安全を考える。50 名参加。

4 月 14 日：リニア残土 NO！小園の会発足(呼びかけ人 9 名)…この日に熊本地震が起きた
候補地取り下げと JR 東海による発生土置場設計中止を要望。署名を呼びかける。

10 日間で下流域の住民 560 名の 7 割に及ぶ 391 名の署名が集まる

4 月末から村長と非公式に話し合い、村長が JR 東海に候補地除外を申し入れる。

6 月 9 日：JR 東海は、一部地権者の同意を得られないため…として計画を断念

背景には周辺住民の反対の声が影響していることは明らかに。